



地域医療連携のつどいを開催いたしました

当院では、地域の医療機関の皆様と顔の見える連携を推進するため、平成22年から毎年5月下旬に地域医療連携のつどいを開催して参りました。今年も5月25日（月）の夜、旭川グランドホテルを会場に講演会と情報交換会を行い、多くの方々にお越しいただきましたことに心からお礼を申し上げます。

講演会では、「婦人科・泌尿器科領域における最新の治療—ロボット支援手術を含めて」を全体テーマに、当院の産婦人科、泌尿器科、放射線治療科の各医師が実際に手がけた治療例を提示しながら説明しました。また、情報交換会では、会場から人が溢れそう！？な中で、楽しく、ときには熱く語り合う姿があちこちで見られました。

今後もこのつどいは継続する予定ですので、ご参加いただけなかった方も、次の機会にどうぞご参加ください。

講演会内容

「婦人科領域における鏡視下手術について」 産婦人科 中田 俊之



「前立腺癌に対する最新の手術治療—ロボット支援下前立腺全摘除術について」 泌尿器科 望月 端吾



「婦人科・泌尿器科領域における高精度/低侵襲の放射線治療」 放射線治療科 川島 和之



医療機器共同利用事業をご利用ください

当院では、地域の医療機関様との高度医療機器共同利用を実施しており、患者さんの検査等のお申込みをお受けしておりますので、どうぞご利用ください。

共同利用検査の種類は次のとおりです。

- ①CT
- ②MRI
- ③RI
- ④骨密度測定

お申込みは、お電話でお受けしております。これまで受付場所が複数でしたが、より申込みしやすくするため6月末から1か所でお受けできるよう改善いたしました。

お申込み先

市立旭川病院
(代表) 0166-24-3181 内線3778 (中央放射線科 受付)

※放射線治療（リニアック）の患者さんは、予約申込書を用いてFAXにてご紹介ください。
問い合わせ：内線5370（地域医療連携課）

医師紹介 ～私の履歴書～

放射線科診療部長 **はなわ まこと**
花輪 真



私の担当している分野はCT、MRIなどの画像診断とIVRです。その中でもIVRを主に担当しています。

IVRとは、インターベンショナル・ラジオロジー（interventional radiology）の略で最小侵襲治療などとも意識され、X線、CT、超音波などの画像を利用して、体内の臓器を見ながらカテーテルなどの器具を用いて行う治療手技です。血管系IVRとして血管内治療とも呼ばれ血管の中にカテーテルなどを挿入して各種疾患を治療する領域と、非血管系IVRとして、直接、罹患臓器を穿刺針などを用いて治療する領域に大きく大別されますが、いずれも、外科的に大きく切開することなく病気本体を直接治療することのできる治療法です。

胸部腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術や動脈硬化症（PAD,ASO）により四肢の血管が細くなり狭窄、閉塞を起こした血管をバルーンやステントを用いて拡張する血管拡張術などの血管内治療。透析シャントの狭窄によるシャント不全に対するシャント拡張術。各種臓器の悪性腫瘍（肝細胞癌、腎癌、肺癌など）に対して抗ガン剤を動脈内注入したり、腫瘍の栄養血管を直接ふさぐことによりガンを死滅させる化学塞栓療法などの癌治療。胆管癌などの胆管狭窄に対するステントを用いた内瘻術。CT、超音波を用いた穿刺生検による診断、及び穿刺針を用いて直接腫瘍を死滅させるPEIT、RFAなどの治療。子宮筋腫に対する動脈塞栓術、脾機能亢進に対する部分的脾塞栓術など、悪性、良性を問わず従来手術のみが治療法であったものに適応が広がってきています。

消化管出血や喀血に対する止血術、動脈瘤破裂による出血に対する塞栓術、門脈圧亢進症、静脈瘤などからの出血による硬化療法、膿瘍ドレナージ、胆道ドレナージ、胆嚢ドレナージなど、緊急症例にも対応しています。

また、中心静脈（CV）リザーバーや経皮経食道胃管挿入術（PTEG）、神経ブロックなど患者さまの治療におけるQOLを向上させる手技も行っています。中心静脈（CV）リザーバーは在宅医療にもルート確保、栄養療法に非常に有用な方法であり、市内各医院からご紹介いただき外来でも造設させていただいています。

このようにIVRとは、癌治療においても、血管系疾患においても、全身への副作用を軽減して罹患臓器だけをピンポイントに狙って効率よく有効に治療するもので、それゆえ、機能温存を可能にせしめ、全身状態が悪く手術が難しい患者さまに手術と同等の治療効果をもたらす治療を目指したものです。

IVRを行う際は、全身の各種疾患と関わっているため、内科、外科など他科と密接に連携し、その患者さまにとって最も有効かつ有用な治療法を選択し、IVRが選択された場合、その方法が全身的負担の少ない低侵襲かつその疾患に対して最も効果的な治療法であることを心がけています。

IVRは医学のなかではまだ歴史が浅いこともあり、専門性を持ってIVRを行っている医師がいることの認知度がまだ低い状態です。こういう病気になんらかの低侵襲な治療法があるか？と思われましたら、是非ともお気軽にご相談ください。

発行：

市立旭川病院 地域医療連携課

〒070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号

TEL (0166) 24-3181 (内線5370)

FAX (0166) 26-0008